

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02604

研究課題名(和文) 20年間追跡調査に基づく虐待予防および悪化防止機序の解明と支援モデル開発

研究課題名(英文) DEVELOPING EARLY INTERVENTION PROGRAMS ON CHILD CARE ENVIRONMENT TO PREVENT CHILD ABUSE USING COHORT EVIDENCE OVER JAPAN

研究代表者

安梅 勅江 (Anme, Tokie)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：20201907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、乳幼児期の子育て支援機関における科学的な根拠に基づく「虐待予防および悪化防止支援モデル」を開発し、実用化することを目的とした。

保育者と保護者に対する質問紙調査と面接調査を実施し、コホートをを用い、子どものウェルビーイングを目的変数に、不適切な養育環境など家庭環境要因、発達障害など子どもの特徴要因、保護者のストレスなど保護者特徴要因、社会サポート要因などを説明変数に、複合的な関連について多変量分析を用いて検証した。それらの成果に基づき、子育て支援と環境支援を連動した「虐待予防および悪化防止支援モデル」を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、こども園、保育園、幼稚園など乳幼児期の子育て支援機関において、科学的な根拠に基づいて虐待予防および悪化防止を支援するための方法について開発したものである。子どもおよび保護者に対する子育て支援専門職のアセスメントの方法、働きかけの方法、評価の方法を提示し、実用化を図った。特に、虐待の悪化防止の仕組みに注目し、発達の道すじと支援方法がどのように関係するかを明らかにし、実践に活かすことのできる教育方法なども開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop early intervention programs on childcare environment and clarify the mechanism for child abuse prevention using cohort study in Japan. To make this program from a longitudinal perspective, data were collected from Japanese children, their guardians, and the government-authorized childcare professionals responsible for overseeing them. Guardians completed a survey containing items regarding socioeconomic status, family composition, and home environment. The childcare professionals supplied details pertaining to the children's preschool-age development. A multiple regression analysis revealed that rich childcare environment at the preschool age related their well-being upon reaching the school age. According to these outcomes, we developed the intervention program, which quality childcare is combined with an appropriate home environment.

研究分野：保健福祉学

キーワード：虐待予防

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 児童虐待相談対応件数は 2018 年度 16 万件近くにおよび、前年度比 19.5% 増と増加の一途をたどっている。虐待予防および悪化防止に向けた早期支援は、保育園、幼稚園、認定こども園など乳幼児期の子育て支援機関において強く求められている。
- (2) しかし日本においては、これまでに全国の園児を対象とした経年的な大規模データを用いて、就学後の子どもの育ちまで追跡した科学的な根拠に基づき「虐待予防および悪化防止支援モデル」を提案した研究はまったく存在しない。
- (3) 欧米先進国においては、英国の 63 年追跡コホート研究をはじめ、国レベルで出生から 15 年以上におよぶ大規模コホートプロジェクトを立ち上げ、これらの課題に取り組んでいる。
- (4) 我々は過去 20 年にわたり、子育て支援や家庭環境が、子どもの発達や社会適応、健康状態に及ぼす影響を追跡研究してきた。その結果、質の高い子育て支援を確保すれば、家庭における適切な子どもへのかかわりや、保護者の育児への自信、保護者へのサポートが、子どもの経年的な発達状態、健康状態、問題行動などに影響していることを明らかにした。なお本研究における子どもの発達、適応状態、健康状態への影響の経年的な評価法や統計的な分析法に関しては、欧米先進国と同様の方法を用い、国際的に比較可能なデザインを採用している。
- (5) さらにこれら科学的な根拠に基づき、「家庭環境の評価指標」「気になる子どものスクリーニング指標」「園児の発達評価指標」「保育の質の評価指標」を開発し、子どもの健やかな発達と保育の質の関連性を検討し、証拠に基づく評価基準を作成し、活用のための研修会を開催してきた。

2. 研究の目的

本研究は、根拠に基づき乳幼児期の子育て支援機関における科学的な根拠に基づく「虐待予防および悪化防止支援モデル」を開発し、実用化を図るものである。特に、虐待の悪化防止機序に注目し、発達の軌跡と支援方法の妥当性に関する学術的な知見を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

支援プログラム効果検証のための在園児 3,000 名に対する質問紙調査と訪問面接調査を実施した。

乳幼児期から思春期に及ぶ長期大規模コホートデータを用い、子どものウェルビーイングを目的変数に、不適切な養育環境など家庭環境要因、発達障害など子どもの特徴要因、保護者のストレスなど保護者特徴要因、社会サポート要因などを説明変数に、複合的な関連について多変量軌跡分析を用いて検証した。

それらの成果に基づき、科学的な根拠に基づく「虐待予防および悪化防止支援モデル」の開発を行った。

4. 研究成果

- (1) 保護者と子育て支援専門職への虐待予防と悪化防止支援に関するニーズと内容把握
虐待予防および悪化防止支援プログラムのニーズと内容を抽出するため、保護者および子育て支援専門職に対するフォーカス・グループインタビューを実施した。子どもと保護者に対する対応の仕方、必要な保育環境、サポートの現状などを討論の柱として、具体的な内容を詳細に、できるだけ数多く収集した。1 グループあたり原則として約 1 時間半の時間をとり、子育て支援に長年取り組んできた実践家の豊富な体験や保護者の生の声を、フォーカス・グループインタビュー法の分析技術を活用しながら整理した。実施にあたっては、ビデオ 3 台で録画し、逐語記録と観察記録を合わせてデータ化した。

- (2) 「虐待予防および悪化防止」経年推移と子どもの育ちへの関連要因に関するデータ分析
追跡調査対象は、全国の 0 歳～6 歳児と保護者、毎年 3,000 組ずつ平成 11～31 年の 20 年間パネルコホート研究を継続した約 60,000 組であった。調査内容は、身体的精神的ウェルビーイング状態、家庭環境、社会サポート状況、健康状態、社会適応、家族と子どもの属性などである。養育環境、サポート環境、子どもの経年的な発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の推移を勘案しながら、ウェルビーイングを目的変数に、乳幼児期の関連要因を説明変数として多変量軌跡分析により複合的な影響度の強さを明らかにした。

- (3) 「虐待予防および悪化防止支援モデル」の開発

1) 海外コホート研究の根拠に基づく支援プログラムの開発過程、内容、評価に関する系統的レビュー、2) 大規模コホートデータの分析結果、3) 保護者と子育て支援専門職のフォーカス・グループインタビューにより得られた情報、4) 開発済みの「養育環境評価指標」を活用し、統計的妥当性及び臨床的重要性を加味しながら、有効な項目を抽出して体系化し、「虐待予防および悪化防止支援モデル」を作成した。

- (4) 「虐待予防および悪化防止支援モデル」実施とプロセス評価

保護者に対する調査（家庭環境と支援ニーズに関する実態把握）、医療・福祉・教育専門職による子どもへの面接・観察調査（子どもの心身の健康と課題に関する専門的な評価）を実施した。専門職による子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の評価、保護者に対する質問紙

調査、専門調査員による家庭環境評価、面接調査、環境評価を行い、評価の妥当性を検証しつつ不適切な養育環境の特性別パネルコホートをを用いた支援プログラムのプロセス評価を行った。

(5)「虐待予防および悪化防止支援モデル」の「保育の質の評価指標」への反映
我々がすでに開発している「保育の質の評価指標」の枠組みである「子ども」「家族」「保育環境」「連携」の4領域について、家庭、子育て支援機関、地域との連携により「虐待予防および悪化防止支援モデル」を反映した形で総合的に展開できるよう検討を加えた。

(6)「虐待予防および悪化防止支援モデル」のアウトカム評価の実施
保護者に対する調査（家庭環境と支援ニーズに関する実態把握）、医療・福祉・教育専門職による子どもへの面接・観察調査（子どもの心身の健康と課題に関する専門的な評価）を実施した。専門職による子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の評価、保護者に対する質問紙調査、専門調査員による家庭環境評価、面接調査、環境評価を行い、評価の妥当性を検証しつつ気なる子どもの特性別パネルコホートをを用いた虐待予防および悪化防止支援モデルのアウトカム評価を行った。

(7)アウトカム評価に基づく「虐待予防および悪化防止支援モデル」の提案
アウトカム評価を反映させ、「虐待予防および悪化防止支援モデル」の実践活用モデルとして、実践の場で活用しやすいさまざまなモデルを提案した。
さらに、「科学的な根拠」として活用可能なコホート研究に基づく成果を、ホームページで広く公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Etsuko Tomisaki, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Ryoji Shinohara, Maki Hirano, Yoko Onda, Yukiko Mochizuki, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 The relationship between the development of social competence and sleep in infants: a longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Child and Adolescent Psychiatry and Mental health	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13034-018-0258-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yuning Zhang, Emiko Tanaka, Tokie Anme, Shigeyuki Mori, Robert Bradley, Jennifer Y.F. Lau	4. 巻 91
2. 論文標題 Japanese residential care quality and perceived competency in institutionalized adolescents: A preliminary assessment of the dimensionality of care provision	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Children and Youth Services Review	6. 最初と最後の頁 204-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 渡邊久実 田中笑子 安梅勅江	4. 巻 31
2. 論文標題 ライフコースアプローチによる思春期のwell-being実現に向けた要因解明	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達研究	6. 最初と最後の頁 215-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Agil Hilda M, Watanabe Kumi, Tanaka Emiko, Afiyanti Yati, Anme Tokie	4. 巻 23
2. 論文標題 Factors influencing Indonesian male partners' support in the postpartum period	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Makara Journal of Health Research	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7454/msk.v23i2.10636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Tokie Anme
2. 発表標題 Community Empowerment with “Dynamic Synergy Model”
3. 学会等名 International System Sciences for Health Social Services (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokie Anme
2. 発表標題 Evidence based Child Care in Japan
3. 学会等名 Early Child Care Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺多恵子 安梅勅江
2. 発表標題 子ども虐待を低減する要因の検討：6年間の追跡研究より
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tokie Anme
2. 発表標題 Bridge between Science and Practice for Childcare and education: Using the Cloud Computing-Based Support System and Longitudinal Cohort Study
3. 学会等名 2019 Asian Forum on Children's Development in the New Era (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Tokie Anme	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Nihon Syoni Iji Shuppan	5. 総ページ数 60
3. 書名 Empowerment Sciences for Professionals: Enhance Inclusion and a World of Possibilities	

1. 著者名 Tokie Anme	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NOVA publications	5. 総ページ数 39
3. 書名 Creating Empowerment in Commnitiess:Theory and Practice from an International Perspective	

1. 著者名 安梅勅江	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 264
3. 書名 子どもの未来をひらく エンパワメント科学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

子育て子育てエンパワメントに向けた発達コホート研究
<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/ecd/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 裕 (Tanaka Hiroshi)		
研究協力者	酒井 初恵 (Sakai Hatsue)		
研究協力者	宮崎 勝宣 (Miyazaki Katsunobu)		